講演番号余白．これを消して提出ください

九州・中国支部学術講演会原稿テンプレート

九州中国大学　○大分あゆみ　[院]，山口一郎，材料大学　福岡晴夫

A Sample Template of Manuscript for the Conference of JSMS, Kyushu & Chugoku

Ayumi OITA, Ichiro HIROSHIMA and Aki YUFUIN

１．緒　　言

これは，日本学術会議材料工学連合講演会講演論文集の原稿のフォーマットをもとに支部用に変えたものです．本フォーマットに従い，２ページ以内に日本語または英語で作成して下さい．作成した原稿は pdf ファイルに変換して，メールでお送りください．なお，pdf にファイルに変換の際には，文字化け等が生じないようにフォントにご注意ください．句読点は「,」,「.」を用います．

セクションは中央に，セクションの番号とタイトル「**１．緒　　言**」のように**太字**にてコラムの中央に，サブセクションは「**２・１ワープロソフト**」のように太字にてコラム左端にお書きください．参考文献，謝辞にはセクション番号は不要で，これらもコラム中央に太字でタイトルをお書きください．改行の際には段落の先頭に１文字お空けください．英文で書く場合にも同様な改行をしてください．サブセクションの場合には，**サブセクションタイトル（太字）**の後，一文字空けて本文をお書きください．

２．原稿作成要領

２・１　ワープロソフト　原稿作成には，マイクロソフトワード（９７以降）もしくは一太郎（バージョン８以降）をお使いください．その他のソフトを使用する場合は，この作成要領にもっとも近い体裁になるように調整して原稿を作成して下さい．

２・２　原稿用紙・印刷　原稿はＡ４（297mm×210mm）２ページ以内に作成して下さい．２ページを超える場合は受け付けません．また，カラーの原稿を送付されても白黒で印刷します．講演番号はプログラム編成時に決定し，印刷される予定です．

２・３　マージン　原稿用紙に，左右 20mm，上部 20mm，下部25mm のマージンを確保し,この枠内に原稿を作成して下さい．この枠外のものは印刷されませんのでご注意下さい．また, 本文は２段組とし, コラム幅 80mm, コラム間隔を 10mm として下さい．

２・４　題名，著者名　題名は１５pt のＭＳ明朝（あるいはこれに準じた明朝）のボールド（太字），著者名は１１pt のＭＳ明朝体をご使用の上，本例に従って記載して下さい．題名は中央揃えとしますが，題名の頭には講演番号をプログラム編成に従って実行委員会の方でつけますので，左欄の端より **25mm** 以上空けて下さい．また，著者名は，勤務先，氏名の順に記載して下さい．連名の場合は講演者（登壇者）に○印をつけて下さい．氏名の英文は常用しているアルファベットのお名前でかまいません．

２・５　本文　本文は９pt の MS 明朝をご使用下さい．１コラムの文字数は全角で２５文字程度，行間隔は１３pt～１５pt 程度として下さい．したがって，１コラムあたり４８～５３行，１ページあたり約２２０８字です．参考文献は[1), 2), 3)]のように番号をつけて本文の最後にまとめて下さい．英文の場合には Times New Roman ならびにそれに準じたフォントを上記のサイズにて用いてください．参考文献の書き方は，例にあるように，日本材料学会誌「材料」に準じて，適宜，必要な情報（氏名，雑誌，**巻**，号，（開始）ページ（西暦年））がわかるように略してください．本等の書き方も「材料」の書式に準じます．

２・６　図表・数式　図表を本文で引用する場合は，図（写真を含む）については，図１，図２のように，また表は表１，表２のように引用して下さい．なお，図表中の説明，キャプションは原則として英語とします．図はこの見本のように用紙にそのまま貼り込める大きさに用意し，本文中の説明と離れない位置に貼り付けてください．その際に，図，表中の文字，記号などがみづらいような小ささとならないことをご注意ください（図中の数字記号も本文のフォントサイズの大きさ程度を原則とします）．図・表どうし，あるいは，図，表と本文は１行以上間隔をあけるようにして下さい．

数式はできるだけテキストスタイル（Times New Roman）にてお書きください．また，引用に用いられるなど，重要となる数式には，改行して式番号をつけ，

$$\sigma = \sigma_o + k\varepsilon^n \qquad (1)$$

のようにお書きください．ただし，論文集の印刷には pdf ファイルを用いますので，ワープロ専用の数式エディターを用いられてもかまいません．その際に行間が変化することは好まれませんので本文中への数式の挿入には気をつけてください．上の式の例では，本文に $\sigma = \sigma_o + k\varepsilon^n$ を挿入しても行間は

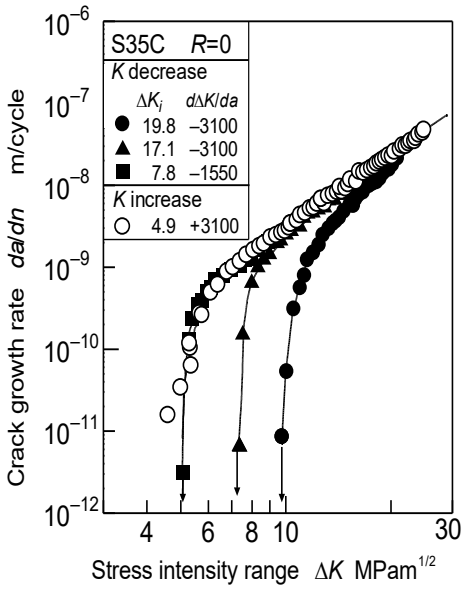

Fig.1 Relationship between da/dn and ΔK.

変わりませんが，数式エディターで書いた数式を挿入すると行間が微妙にずれてしまう場合もありますのでご注意ください．

３．原稿の送付

原稿の pdf ファイルを，必ず締切日までに，下記に示す URL よりアップロードしてください．紙に印刷したものは受け取りませんのでご注意ください．なお，写真等の掲載により，ファイルの容量が 10 MB を超えますと，論文が提出できません．その際には適宜大容量ファイルを送れる手段等に関して，問い合わせ先までご相談ください．

原稿提出の URL：
https://forms.gle/FLT6nXaJhe6KUdma7

締切日に遅れて到着した原稿は論文集に掲載されません．掲載されなかった場合，資料は必要に応じて各自が準備して会場にて配布して下さい．

※特別講演のように支部が依頼したものは，支部にて講演会までに配布資料の準備いたしますが，できましたら講演概要の講演集への記載も望んでおります．

４．講演発表

講演発表時間（討論含む）は１５分の予定です．使用機器は PC プロジェクタを用意しています．なお，プログラムは日本材料学会九州支部ホームページに掲載予定ですので，支部ホームページ（http://kyushu.jsms.jp/）よりアクセスください．

謝　　辞

皆様のご参加，ご協力に心よりお礼申し上げます．本支部講演会ならびに併設事業（合同研究会・技術懇話会）など全般についてお問い合わせがございましたら，下記までお願いします．

問い合わせ先（全般）：
長崎大学大学院　総合生産科学研究科
小山　敦弘
電話：095-819-2496
電子メール a-koyama@nagasaki-u.ac.jp

その他の情報：本講演会・合同研究会・技術懇話会
URL：http://kyushu.jsms.jp/
をご覧ください．

参考文献

1) 吉田太郎，北山左京，材料，**48**，555 (1999).
2) H.Harada and T.Yoshida, Proc. M. Soc., **A-123**, 321(1989).